13
2378
298

勸善浮世車は叙

夢は人は世にたとへ車の廻るが如く稍成長して。子孫設く
らんいと嬉び。三十四十ゆく初老なれば。吾知らず年積りて。竟に頭に越路
は雪を戴頂天。婀娜が富士額と愛らるるとも。田子は浦の波に湛え。
腰屈め肉脱ぬ。浮世は名殘風に。光者は風に果敢なく散る。
我が子孫我の孫。我の玄孫とし。まるく斯は如くに況て昨日まで
富貴為し多業を驕りしとも。今日は貧賤に身を沈む。或は言を空
授て世に花明しとも。忽地我の威勢失ひて。食を竊む野猫に
齊し。然るに園を零落し。なほ世の人は我を形容し。
身を時に笑顔は福壽叶。我の光りに花さかせて。我の家を賑ふ

遠18
2378
28

美り。我が身を家族と歡び思へば。況身は憐れくなりて。家藏を
売ん。金を泥に貯へ何不足なく身を誇るより。我が言を慢て人を
見くだし。或は遊興の逸樂ぬ。もしは園を
うち忘れて。身分不相應の驕奢を極
め。竟は家産を傾けば。元の
園窮と成るとも。まこと恥ぬ眼前
なり。上は園さらば清朝人某が著はし処
教えを。人を種なりと。是を根として
物語れ。我の緒を思ふべし

浮世車

于時弘化五戊申新春

松亭金水題

困窮　こんきう

「あるとものそのわたしいろんのあやまりとのこれとりのごびんぼうみるつたびれも
ごぶいてんまるるのもいあたるで
でもあるこのいろんのことでもいつまう
わしのうちごまのぞしてくよろしう
一ものの人とのめのてくはうるものでとちのつてとのこ
ろいやまこれとのつてんまてうかこのの人のみること
ちろとるみまひてんるのホンこびんぼうみどつてこのの

悔悟　くわいご

「さてくちろどろいぶぶおとまりの
やうすんとのこのこいでたませんが
せうくののこいかしてちんせませうこう
ゑんだあたるひでもしてちつたるさるこう
「そまこいもう　ありがとうございまたとまが
ものちどこでわるみちのごちんだろうこいろ
こうまとまいんとまろこのちろぶりみまいで
きりとどちんぐーいこーまいバイありうこう

勤苦　きんく

「けこいてんきろのこうのりぐくんとうまて
うまこのこまてこうまきこありがとまりこて
こうこうこうおまこるせいぐこてあれたるいして
あひるまるんのちんくこうこう
「ありがとこのこあのあたるいるすあるあるョ
ひろめるもをこのこをこせあるいるこう
ままあこんこんこのこまこいあう
ちやどころーこてちいこんこまこいョ

節儉　せつけん

「おまこんのちのこいるこのこをこたぶき
のこのひあのおこのこるこいるこ
そるのふあんまりひどこのんこひあのこ
おこうこのこまこるここあうこう
「このふくこうこいここんこのこのこいこうこいて
みぐこうこのこのんきこあの一まこのやまぶんきこれ
あのこまあのこのこをこいたきこびふあるのこのけんやこ
まこいてこのあのこいるこのここのりこくこんこのまこ
「そんあのこうまあこのこくこんこまこいまこう

積貯

富足

驕慢

豪奢

湯暑

「とまつくんぞさうかな
いひのけてゑまのつもの
あつぐでさうこやみざる
たひくもくれくるゆうあつりひつたの
あげくしいのぐあつさうるのぐ
「ハリくくんぞさうゆきう
あつさうこくのぐようどぎい
まけうくんあつりとあつまいは

禍変

「そやまいあるがわ紙をあつてまぐこ考ゆうぐ
祝ごさうとあとさうとあれがかつてごうちあそ
おきやあんのいこ了紙をあてやたりちをもあつめ人
ハ〜たつあまくあくさまくあくしておそやア
いたんあるあ「あのすこしがあたものの
あんのとたんなうつこことやぐごいうたんグ
まけこのあんぎ紙ちよう旦
年ろちやこまやよいたまこ

とまとあり家の門ばしらくびたそい女房もあけみあるのくえより香ぬ湯を
のみあくひけつの義見あすいあとおるるどあたんぶ代もそくと門のあ紙
たとび出ー家門おうよりくかつて作くあるひあたくー元のこんきうまらくとあるさまごんきうよりごんくあげて
富ふとあるあいしこたのあけうんそうあうえそい落懶豪著み
あれごるのあるまごたく紙よく利年べー

本文のよみかた

まあいづまのあんこたあやありけんあてく新明の切ふみ
嵯峨やでんぢうときこえーいあのぐいまそこのあちりみ一とのひて二とふさがくねい
えんぐいそおりけるぐこのでんぢうときこえたこたくあ毎みあ宜てよりぐんそうのあくこ
そこさうりけるのあんこのあ紙ぐーけるぐいくあるてんまのこぎ
あやありけんこまでまあぐこたでんぢうあるあんあ紙ぐーちのすあみありいうちよがくみを
たあいくこあ紙まこたくあるさくみやこのぐくあ宜ぐくあこことまあくあこれぐこあきさ
ぐんあこえくうと日ぐこあ入こきさあぐくみそ
こあくうぐ宜ぐつまのあんかいのあもくこんた
あーれれこあるのみくみ間ふやくうあさくあ宜ぐうちをここくてあそぐやどみ

浮世草子
四
浮世草子
五

賣吉

貞房画
金水作
五

勸善浮世車

松亭金水作

橘蝶樓貞房画

弘化戊申孟春新版

板元森治

下編

勸善懲惡世間

八里半

八星半

定 六十目 五百文 一切

竹取物語十一編　山東京山作　一陽齋豊國画

浮世源氏繪十五編　山東京山作　一陽齋豊國画

勸善浮世車　松亭金水作　金四冊　橘蝶樓貞房画

平氣物語　東里山人作　金四冊　歌川貞秀画

友三味線操合奏　式亭小三馬作　金四冊　一陽齋豊國画

新製長御年玉物
小錦繪源氏五十四帖　たとう入

民家重宝　家内安全福壽相　全一冊

金成樹日毎肥　一枚摺

諸商人寶珠玉　同　袋入

年數早見重寶記　同

江戸馬喰町二丁目
森屋治郎兵衛板

橘蝶樓貞房画

松亭金水著